

学校教育目標	「夢と志」をもち、未来に向かって果敢に挑戦する児童の育成	経営理念	ミッション: 自分も相手も大切に、自ら考えて行動することができる児童の育成 ビジョン: 信頼される開かれた学校づくり
--------	------------------------------	------	---

評価計画							自己評価				改善方針		学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	改善方針	評価	コメント
							9月	1月						
確かな学力	1	主体的に学ぶ楽しさが味わる授業づくりをすることで、確かな学力をつける。	☆知識・技能の習得	○ICT機器を効果的に活用した授業を行う。 ○スキルタイムを継続して実施する。	・NRT、標準学力調査標準スコア(国語・算数)	児童50	国語 49.25 算数 48.05	国語 50.2 算数 52.1	102%	3	1月の標準学力調査の結果、国語科、算数科共に、全国標準スコアを上回った。これは、9月のNRTの結果を受け、日々の授業の指導方法を改善した結果が現れたと考える。	今回の結果で明らかとなった児童のつまずきに対して、個別指導を強化する。また、個別最適な学びの更なる推進を図るために、ICTの効果的な活用を学校全体で進める。	B	適切に評価されている。日々の授業方法の改善と個別指導の強化・個別最適な学びの把握などを通じて、知識・技能の向上が図られたことは素晴らしい。
			○個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を図る授業改善	○授業のユニバーサルデザイン化を図り、個別最適な学びと協働的な学びを生かした授業改善を行う。 ○ユネスコスクールとして、SDGsの達成を目指し、地域創生プロジェクトで体験活動を実施するとともに、教育活動全体を通じて表現したくなるような工夫を行い、表現する機会を設ける。	・授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。 ・自分の地域の良さを表現している。 ・児童が表現したくなるような指導の工夫をしている。	児童80% 児童85% 教職員100%	児童81.6% 児童83.1% 児童82.4% 教師100%	児童89.8% 教師100%	102%	3	「授業中、自分で考えて問題を解きます」の児童アンケート結果の肯定的回答が76.2%であった。今年度は国語科に絞って授業研究に取り組み、児童が主体的に学ぶ授業を実現していく。校内で研修を行い、継続して指導力の向上を図るとともに、児童が授業で見通しをもつ学習に取り組むことは90%であった。しかし、学習に対する自信を高めることは課題であり、継続して取り組む必要があると考える。 「自分の地域の良さを表現することができた。」の児童アンケートの結果は、89.8%であり、昨年度より5.4ポイント改善した。合わせて「自分の地域が好き」という児童が昨年度より増え、97.8%になった。十分な体験と表現場面があったと考える。	児童の学習に対する自信を高めるために、教師が適切な課題を設定し、児童が主体的に学ぶ授業を実現していく。校内で研修を行い、継続して指導力の向上を図るとともに、児童が授業で見通しをもつ。お互いの考えを出し合い、まとめる学習過程を明確化し、学んだことが実感できる振り返りを行う。	A	適切に評価されている。多様な特性のある児童の可能性を最大限に引き出すためには、個別最適な学びを推進すること他者と関わりながら課題を解決していくことが重要であり、そのような授業改善をお願いしたい。
豊かな心	2	自己有用感や社会性を高め、豊かな心を育む。	☆相手を大切にすることの礼儀・マナーの向上	○東広島スタンダード(特に挨拶)を示し、意識させる。 ○各学級において挨拶する機会を意図的に設定するとともに、挨拶レベル向上のための取組を考えさせる。	・あいさつレベル3ができています。	児童70% 教職員80%	児童46.4%	児童83%	103%	3	9月のアンケート結果よりも数値は大幅に向上し、目標値より大きく上回った。自分から進んであいさつする機会が多く、教室にあいさつレベルの掲示をしているからだと考える。	各学級や全体指導の時に考えてあいさつする機会を継続して設定するとともに、反復しつづめる時間や児童運営委員会委員のあいさつ運動等、児童に考えさせる機会を持ち、より自分事として考えさせる。	A	適切に評価されている。挨拶をする目的・効果をしかりと児童に納得させることが重要である。レベルアップを目標に継続的な指導をお願いしたい。
			○自己有用感の向上	○各学級において、お互いを褒め合う場を定期的に設定する。 ○各種場面で肯定的な評価を意図的に実施する。	・褒められて嬉しいと感じたことがある。 ・自分は人の役に立っている。	児童80% 児童80%	児童85.4% 児童72.6%	児童87.7% 児童75.2%	109% 94%	4 2	アンケートの結果、9月の結果よりも数値は向上し、目標値より大きく上回った。授業の振り返りや授業研究の場面で児童の意見を積極的に取り入れる。アンケートの結果、9月の結果よりも数値は向上したが目標値には至らなかった。人の役に立っているという点に実行できにくかったと考える。	各学級において、自分たちで係や内容を考えさせたりすることで係活動を充実させる。人の役に立つ活動を引き続き意識させることで自己有用感を高める取組を継続していく。	B	適切に評価されている。家庭との連携を大切にしながら指導を継続させてほしい。
健やかな体	3	基本的な生活習慣の定着や健康や安全について理解し、健やかな体をつくる。	☆学習姿勢の意識化	○姿勢を安定させることが健康の保持につながることを学習させる。 ○体幹を鍛えるエクササイズを実施する。 ○授業の開始・終了時の「立腰」で意識させる。	・姿勢を安定させることが健康のために大切であることを知っている。 ・立腰を意識し、取り組んでいる。	児童70% 児童70%	児童92.7% 児童51.4%	児童92.3% 児童52.8%	131% 75%	4 2	アンケートの結果、9月の結果よりも数値は少し下がるも、目標値より大きく上回った。全校朝会やクラスごとに姿勢を安定させることが健康につながっていることを伝えていたからだと考える。 9月のアンケート結果よりも数値は少し向上するも、目標値には至らなかった。立腰をすることの大切さを理解しているが、継続して授業の開始・終了時に意識しなさいと考える。	全校朝会等で児童に姿勢と健康との関係を伝えるときに、各クラスでも姿勢保持の長所を掲示し、姿勢の良い児童を肯定的評価する。また、体幹を鍛えるエクササイズを全校で実施するなど、いろいろな場面で姿勢を意識できるようにさせる。	B	適切に評価されている。学習姿勢については、基本的な体力が重要であると考えられる。そのため「体感を鍛えるエクササイズ」の取組は大変良いと思う。姿勢の良い児童を褒めながら、指導の継続をお願いしたい。
			○運動・外遊びの奨励	○委員会活動を中心に、運動や外遊び奨励の取組を企画・実行するとともに、環境整備を進める。	・運動や外遊びが好きな子どもである。	児童90% 児童90%	児童88.4% 児童88.7%	児童88.7%	98%	3	9月のアンケート結果よりも数値は向上したが、目標値には至らなかった。委員会活動を中心に運動や外遊び奨励の取組を主体的に考えることが不可欠であったと考える。	外遊び用のボール等の遊具を整備し直すとともに、委員会活動で児童主体で外遊びについて考えさせていく。	B	適切に評価されている。運動や外遊びのために、児童の興味・関心が強い遊具・遊具があると、多様な運動・遊び指導の継続が重要である。
信頼される学校	4	教職員一人一人の働き方に対する意識の醸成を図り、児童と向き合う時間を確保する。	○保護者や地域に開かれた学校の実現	○保護者対象アンケートを実施し、その都度、改善方針を検討するとともに、学校の様子を保護者や地域に発信する。	・学校は、学校の様子を分かりやすく伝えている。	保護者90% 保護者94.4%	保護者93.1%		103%	3	○目標値を上回った。学校だよりや学年だよりは月に1度、ホームページは不定期ではあるが、大きな行事があるときに学校の様子を伝えてきた。また、PTA役員会や入学説明会、地域の集まりでパワーポイントを使って学校や児童の様子を伝えたと、高評価となった要因だと考える。	引き続き、学校や児童の様子を学級だよりや学校だより、ホームページで保護者や地域へ伝えていく。	A	適切に評価されている。職場において、情報発信に親しきを感じている。保護者が好評をしている点は素晴らしい。情報発信を継続してほしい。
			○業務改善の推進	○児童と向き合うための教職員同士の対話を通して、アイデアを共有し、改善意識や同僚性を高める。 ○早期解決を図るため、報告・連絡・相談を徹底し、スピード感をもって対応する。	・自分が掲げた業務目標に向かい、効果的・効率的な仕事ができている。 ・児童と向き合う時間が確保できている。	教職員90% 教職員70%	教職員73.0% 教職員66.0%	教職員90.9% 教職員81.8%	101% 124%	2 4	○「目標に向かって仕事ができている」、目標値を上回った。生徒指導や教材研究、各分掌への取組等、教職員同士で関わり合いながら目標を意識して取り組んだ成果だと考える。 ○「児童と向き合う時間が確保できている」、目標値を大きく上回った。デジタル機器の活用や教職員同士の自由なコミュニケーションを重視し、連携を取りながら仕事を進めたことが要因だと考える。	引き続き、担当する分掌や教材研究、生徒指導対応等について教職員同士で相談し合うことで、早期に文書を提案したり、問題を解決したりする。	B	適切に評価されている。職場において、良好な人間関係づくりは大切である。何でも言い合える職場づくりが実現していただきたい。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価

- 4(目標を上回って達成) ≥105%
- 95% > 2(目標をやや下回って達成) ≥70%
- 105% > 3(目標どおり達成) ≥95%
- 70% > 1(目標をかなり下回って達成)

■学校関係者評価(学校運営協議会による評価)

- A. とても適切である
- B. 概ね適切である
- C. あまり適切でない
- D. 全く適切でない